

平成 27 年度 第 3 回京都市上下水道事業経営審議委員会議事録

日 時 平成 28 年 1 月 27 日（水） 午後 4 時～6 時

場 所 京都市上下水道局本庁舎 別館 1 階研修室

出席者（五十音順，敬称略）

1 委員

市原 民子	京都市地域女性連合会常任委員
神子 直之	立命館大学教授（理工学部）
小林 由香	税理士
寺崎 愛知	市民公募委員
富田 光代	市民公募委員
中嶋 節子	京都大学教授（大学院人間・環境学研究科）
水谷 文俊	神戸大学教授（大学院経営学研究科）
村上 祐子	株式会社京都放送取締役・ラジオ編成制作局長

2 京都市

京都市公営企業管理者上下水道局長，次長，技術長，
総務部長，総務部経営ビジョン策定担当部長，総務部経営・防災担当部長，総務部担当部長，
総務部お客さまサービス推進室長，技術監理室長，技術監理室担当部長，
水道部長，水道部担当部長，水道部水道管路管理センター所長，
下水道部長，下水道部担当部長，下水道部鳥羽水環境保全センター所長，
事務局（総務部経営企画課）

次 第

1 開 会

- （１）出席者確認
- （２）進行の確認，会議の公開について

2 議 題

京都市水道事業・公共下水道事業経営評価について

- ア 総務省「経営比較分析表」を踏まえた経営指標評価に係る検討
- イ 前回委員会の意見を踏まえた取組項目評価に係る検討

3 報 告

- （１）水道事業・下水道事業に係る政府予算案について
- （２）平成 28 年度当初予算編成の公開について

- (3) 山ノ内浄水場跡地における新庁舎の整備について
- (4) 日本水道協会 平成28年度全国会議の開催について

4 今後の予定

5 閉 会

内 容

1 開会

- (1) 出席者確認
 - (2) 進行の確認、会議の公開について
- 事 務 局： 議事及び資料の確認

水谷委員長： 本日の会議は公開とし、議事録については、後日公表することとする。
議事録は2名の委員の署名が必要ということなので、名簿順で、寺崎委員と
富田委員にお願いしたい。

2 議 題

京都市水道事業・公共下水道事業経営評価について

- (ア 総務省「経営比較分析表」を踏まえた経営指標評価に係る検討)

事 務 局： 資料の説明（資料4）

水谷委員長： 事務局の説明にあったように、新たな指標を導入するにあたり、資料の案1
は既存の評価区分を用い、案2では「老朽化」という評価区分を新たに設ける
こととしており、事務局としては案2としたいとのことであるが、本件につい
て委員の皆様から御意見をいただきたい。

神子副委員長： 総務省「経営比較分析表」ではどのような表現となる予定なのか。

京 都 市： 指標を評価区分ごとにまとめ、レーダーチャートで表現するという方法は
京都市独自のものであり、総務省「経営比較分析表」では、経営の健全性・効
率性として8指標及び老朽化の状況として3指標の全11指標について、指標
ごとに経年変化をグラフ化することを予定している。

なお、総務省「経営比較分析表」で用いる指標のうち、資料に赤字で記載
している指標（水道事業では4指標、公共下水道事業では5指標）以外の指標
については、既に本市の経営評価において採用しているものである。

村 上 委 員： 案2のように、老朽化の状況を明確にすることには意義があると考え。案への意見とは別で、水道事業では「管路」、公共下水道事業では「管渠」という表現を用いている理由について伺いたい。

京 都 市： 水道は圧力を用いて流すため、丸い形状となっており、それを「管路」と呼ぶ一方で、下水道の場合は勾配を用いて流すため、丸い形状もあれば四角い形状のものもあり、それらを総体として「管渠」と呼んでいる。

水谷委員長： 他に意見がないようであれば、「老朽化」という評価区分を新たに設ける案2を結論としたい。

（イ 前回委員会の意見を踏まえた取組項目評価に係る検討）

事 務 局： 資料の説明（資料5）

神子副委員長： “しずく”の表現については、年度を記載したA案が良いと思う。

中 嶋 委 員： 事業によっては、ある年度に一気に進捗するものもあるため、“しずく”の表現はB案の方が柔軟な対応ができると考える。ただし、B案の場合、“しずく”の大きさが小さくなると、少し寂しい。

資料1 ページ目の改善案については、新たに加えた文章がやや分かりにくい
ため、表現を再度検討していただきたい。

資料3 ページ目のQRコードについては、どれだけの方に活用いただけるか
は分からないが、説明責任を果たすという意味で改善案に賛成である。

寺 崎 委 員： “しずく”については、B案の方が分かりやすいと感じる。B案の方が、
目標に対しての進捗ということが伝わりやすい。

QRコードについては、わざわざコードを読み取ることは面倒であると感じ
るため、文字の分量は増えてしまう懸念はあるが、冊子内で用語解説を行う方
が良いのではないか。

水谷委員長： QRコードについては、特に高齢の方には活用しづらいものであり、一部
の方を対象としたものになってしまうおそれがある。上下水道局の事業をより
多くの方々に知っていただくための概要版冊子であることを鑑み、冊子内で
簡易な解説を加える方が有用である。

寺 崎 委 員： 水谷委員長の意見も踏まえ、冊子内では簡易な解説を行い、より詳細につい
てはQRコードのリンク先で説明するという形式はどうか。

小 林 委 員： “しずく”の表現については、デザインはA案が優れているが、短時間で内容が伝わるのはB案の方であると感じる。

1 ページ目の改善案については、「平均値による評価が、4. 6 以上はA, 3. 6～4. 5はB, …」という順序にすれば、分かりやすい説明文章になる。

水谷委員長： 前回の各委員の意見に対して改善案を作成し、丁寧に対応いただいたことに感謝する。今回の意見も踏まえ、経営評価冊子を進めてほしい。

3 報 告

(1) 水道事業・下水道事業に係る政府予算案について

事 務 局： 資料の説明（資料6）

京 都 市： 水道事業において、京都市は、これまで国の補助は期待できないものであったが、今回の制度見直しに伴い、採択基準に該当することとなった。具体的には、資料に記載のとおり、給水収益に占める企業債残高の割合と料金回収率による基準に対して、京都市の値が該当することとなったわけであるが、大都市の中でも、本市のように当該基準に該当することはなかなかないことであり、大変ありがたいことである。

小 林 委 員： 補足いただいたように、京都市が採択基準に該当する点については、素晴らしいことである。ところで、今回の新たな基準において、「料金回収率」の分母は何か。

京 都 市： 分母は「給水原価」、分子は「料金単価（供給単価）」である。つまり、給水原価を上回る料金単価を設定していると、料金回収率は100%を超える。

小 林 委 員： 料金回収率が100%を上回っているのは、料金改定を実施したことによるものか。

京 都 市： 御指摘のとおりである。今回の料金改定では、京都市上下水道料金制度審議委員会における検討を経て、「資産維持費」の考え方を導入しており、その影響もあり、料金回収率が100%を上回った。

(2) 平成28年度当初予算編成の公開について

事 務 局： 資料の説明（資料7）

神子副委員長： 大変分かりやすい資料であるが、本資料は経営審議委員会用に作成したもの

なのか。また、様々な事業が掲載されているが、これらが事業全体に占める割合はどの程度か。

京 都 市： 本資料は平成27年12月25日に上下水道局ホームページ上で公表したものである。資料では、特に注目するものとして新規・充実事業を取りまとめており、これらが事業全体に占める割合については、厳密に計算した結果ではないが、概ね3割程度と御理解いただきたい。

小 林 委 員： 山ノ内浄水場跡地の新庁舎建設について、この庁舎は営業所が集まっていくものか、それとも将来を見据えて研究機関を入れたり、大学との連携を行ったりすることを考えているのか。

京 都 市： 詳細については後程報告するが、営業所については最終的に4ブロックとする予定であり、山ノ内浄水場跡地の新庁舎には、そのうち市内西部地域を所管する営業所が入り、さらに水道・下水道の管理の維持管理を行う事業所を集約することで、京都市内の北部地域の防災拠点として機能を持つものとなる。また、水道管路に係る研修施設についても敷地内に建設予定である。

中 嶋 委 員： 資料の中で新規事業はどれか。また、汚泥消化タンクの整備に関して、焼却炉の整備については既に完了しているのか。

京 都 市： 新規事業としては、2ページの「新山科浄水場導水トンネルの2系統化」、8ページの「(山間地域の)マッピングシステムの整備」、9ページの「水道開閉栓作業の民間委託」が挙げられる。

汚泥消化タンクの整備に関しては、平成26年度から老朽化した施設の撤去及び整備を進めているところであり、汚泥焼却炉については4基稼働中で、これらを引き続き使用する予定である。

寺 崎 委 員： 「アセットマネジメントの推進」について、施設の延命を行い、費用の平準化を行うことで、長期的に考えると返って費用が嵩むという可能性はないか。

京 都 市： 下水道の場合、20年程前に平安建都1、200年に向けて、下水道の整備率を100%とすることを目指し、急速に整備を進めた。結果、その時期に整備した下水道については、将来、同時期に老朽化を迎えることとなるが、国による補助が更新時期に合致する保障もないため、資料に記載のように、アセットマネジメントの考え方を導入することとなった。

一度に更新時期を迎えると、財政上大変厳しいものとなり、市民の皆様にとっても大きな負担となるため、費用の平準化を行う必要がある。御指摘のとおり

り、延命化等を行うことで、長期的に見ると返って費用が嵩む可能性もあるが、更新までの間の20～30年程度における総費用、という意味では費用を抑えることができるものと考えている。

富田委員： 「水道開閉栓作業の民間委託」について詳細を伺いたい。

京都市： 開閉栓作業とは、水道の使用を開始される際、そして使用を中止される際に現地に赴き、バルブの開閉を行う作業である。この作業については、現在、上下水道局の職員が行っているが、それを民間企業に委託する、というものである。

富田委員： 資料には民間委託に係る費用が掲載されているが、現在はそれ以上の費用がかかっているということか。また、委託先の民間企業はどのように選定するのか。

京都市： 委託することで、当該作業に係る費用は下がるものと考えている。また、委託については来月競争入札を実施する予定であり、手を挙げた企業のうち、最も費用の少ない企業を採用することとなる。なお、委託するのは、北部営業所及び南部営業所が所管する2つの地域である。

(3) 山ノ内浄水場跡地における新庁舎の整備について

事務局： 資料の説明（資料8）

中嶋委員： 店舗スペースを設けるとのことであるが、具体的にどのような業態の店舗が入る予定か。また、オープンスペースについては、どのような利用者を想定しているものか。

さらに、山ノ内浄水場跡地については、大学を誘致するという話を聞いていたが、大学等との連携はどのようになっているのか。

京都市： 店舗スペースについては、現在検討中であり、具体的な内容をお伝えできる状況にはないが、周辺地域の活性化や賃料収入に伴う上下水道局の財政面への効果を含めて、検討を進めてまいりたい。

オープンスペースについては、水飲み場や多機能トイレを設置することで、来庁される皆様はもちろん、御池通りを通行される皆様にも気軽に御利用いただける場所となるよう検討を進めているところである。

また、検討を進めるに当たっては、南側の京都学園大学や東側の大和学園及び太秦病院とも連携してまいりたい。

市 原 委 員： 資料に記載されたオープンスペースやプロムナード等の施設が全て揃えば、夢のような庁舎となると思う。是非頑張っていたきたい。

京 都 市： オープンスペースについては、太秦病院の建設に伴い、バス停が設置されることが考えられるため、バス停に訪れる方々にも御利用いただける場所となるよう検討を進めたい。

この地域は、太秦天神川駅ができ、区役所や交通局の庁舎ができたものの、なかなか飲食のスペースが広がらないという課題があった。このような中、この度の山ノ内浄水場跡地の整備においては、京都学園大学に一般の方にも御利用いただくことができるレストランがある他、大和学園の中にも飲食スペースが設けられる予定であり、これらも踏まえて店舗スペースについて検討を進めてまいりたい。また、病院の近くには薬局がほしいという声もあり、今後、様々な知恵を絞り、地域の皆様にも喜んでいただけるような店舗スペースとしたい。

資料に記載しているオープンスペース、店舗スペースやプロムナード等は、全て今回の整備計画に含まれているものであり、しっかりと実現してまいりたい。

(4) 日本水道協会 平成28年度全国会議の開催について

事 務 局： 資料の説明（資料9）

神子副委員長： 全国会議については、十数年連続で参加し、毎年座長も務めている。全国の水道関係者が一堂に会する場であり、自身にとっては身近な本会議の次回開催地が京都ということを大変嬉しく思っている。資料に記載されている視察コースやおもてなしについても、京都ならではのものとなるよう期待する。

4 今後の予定

次回の経営審議委員会については、3月下旬を候補として、後日事務局にて調整を行うこととした。

5 閉 会